



「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」に関するアンケート結果

龍ヶ崎市健康スポーツ部スポーツ推進課

「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」の基本構想策定の参考とするための意見収集を目的に、アンケートを実施しました。

調査概要

調査期間

2024年12月4日（水）－12月22日（日）

調査目的

「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」の基本構想策定の参考とするため龍ヶ崎市民の意見を収集

調査対象者

龍ヶ崎市内在住の市民（一部市外在住者からの回答あり）

総回答者数

回答者数：1,105名

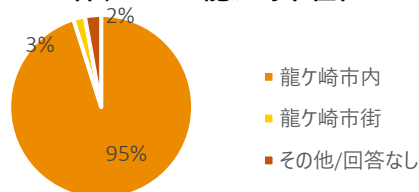
- 男性：486名、女性：592名、回答しない：27名
- 10歳未満：4名、10代：15名、20代：27名、30代：110名、40代：227名、50代：245名、60代：261名、70代以上：199名、回答しない：17名

スポーツライミングの認知度は高いが、体験したことがない傾向にあります。また、活用可能分野では、子どもの活動機会や大会・イベントによるにぎわいづくりが挙げられました。

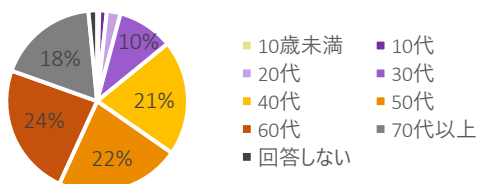
アンケート結果

回答者属性

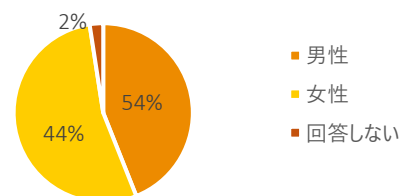
■ 総数：1105件、95%は龍ヶ崎市在住



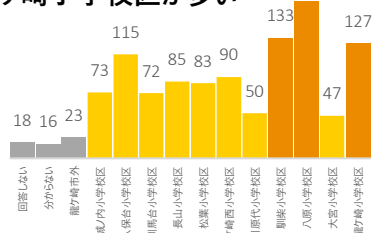
■ 年齢：30代以下は14%、40代以降は85%



■ 性別：男性44%、女性54%



■ 居住地：八原小学校区、馴柴小学校区、龍ヶ崎小学校区が多い



回答結果

Q1.スポーツライミングを知っていますか？体験したことはありますか？

知っていることが
体験したことがない

78%

Q2.スポーツライミングに興味・関心はありますか？

興味がある

77%

Q3.スポーツライミングを知ったきっかけは？

龍ヶ崎市出身選手の活躍
オリンピック

Q4.スポーツライミングの印象は？

楽しそう・達成感が得られそう
トップ選手在住で親しみがある

Q5.たつのこアリーナのボルダリング施設を知っていますか？ Q6. 体験の頻度はどのくらいですか？

知っている

68%

月に1回以上

11%

Q7.スポーツライミングを体験したことがない理由は？

機会がない

Q8. 本取組を知っていますか？関わってみたいですか？

今後、取組に
関わってみたい

35%

Q9.スポーツライミングの活用可能な分野は？

子どもへの機会提供
龍ヶ崎市のブランディング

Q10.ご意見をお寄せください（自由記述）

➤ オリンピアンと連携した大会やイベント開催、本市の独自性のPR、子どもたちに夢や目標を与える等の取組を継続することでまちの活性化に期待

回答者の95%が龍ヶ崎市在住であり、幅広い年齢層から回答をいただきました。
また、男女比は女性がやや多い傾向となりました。

回答者属性（性別、年齢、居住地）

n=1105

総数

回答者総数は1105件、
その内95%の1048人は
龍ヶ崎市在住

年齢

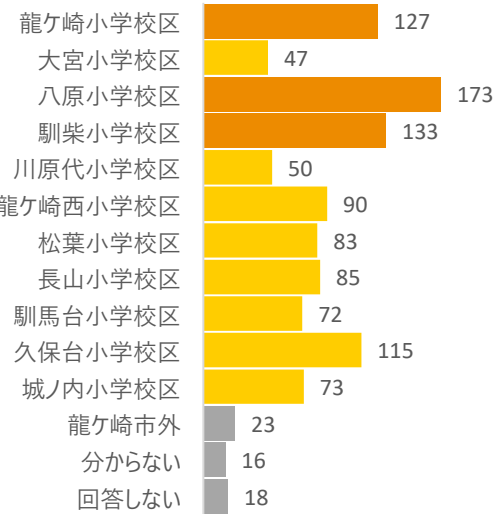
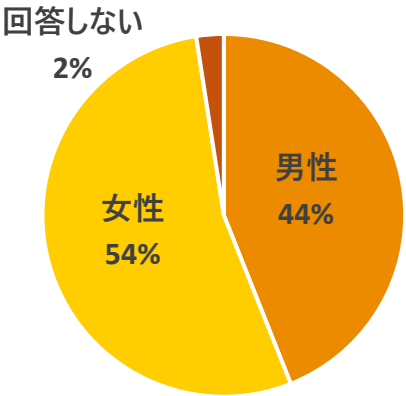
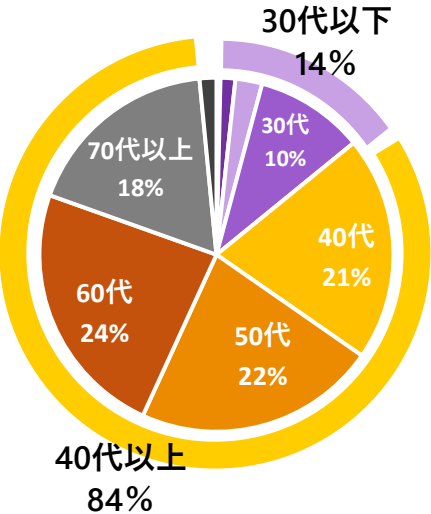
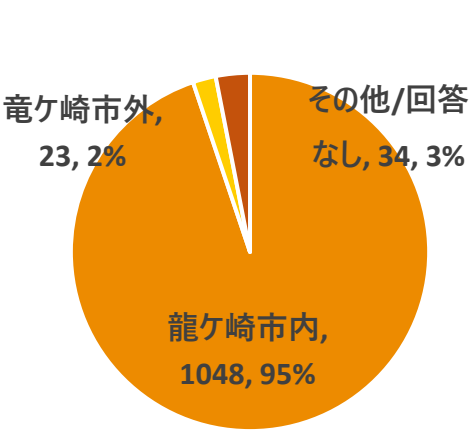
30代以下の回答者は14%、
40代以降の回答者が84%
を占める（未回答2%）

性別

男性44%、女性54%と
女性の回答者がやや多い

居住地

居住地は八原小学校区、
馴柴小学校区、龍ヶ崎小
学校区が多い

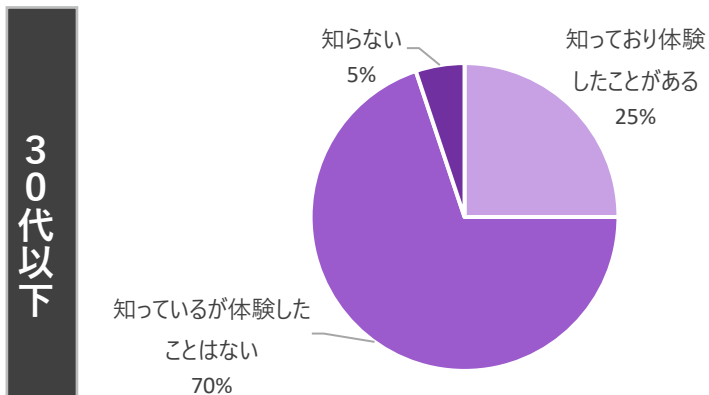
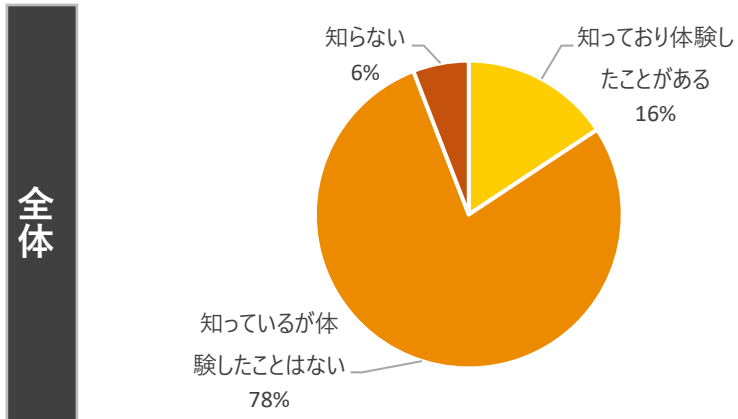


スポーツライミングの認知度は高いが体験をしたことがある割合は少ない状況です。
一方、興味があるとの回答割合は高くなっています。

n=1105 (30代以下=156)

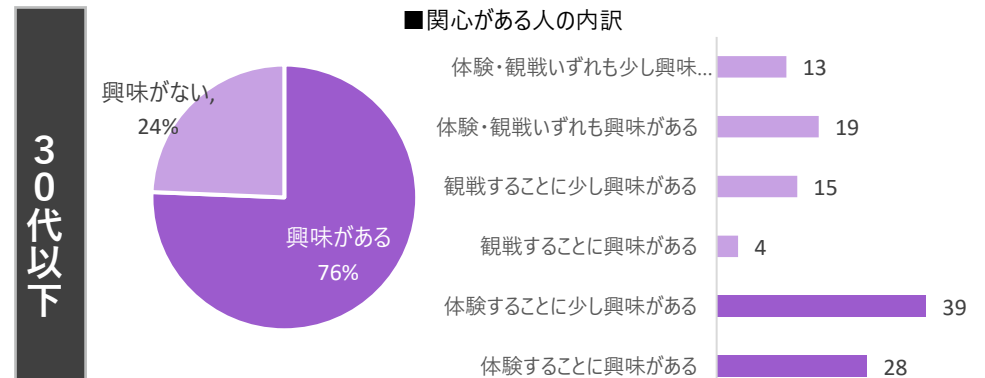
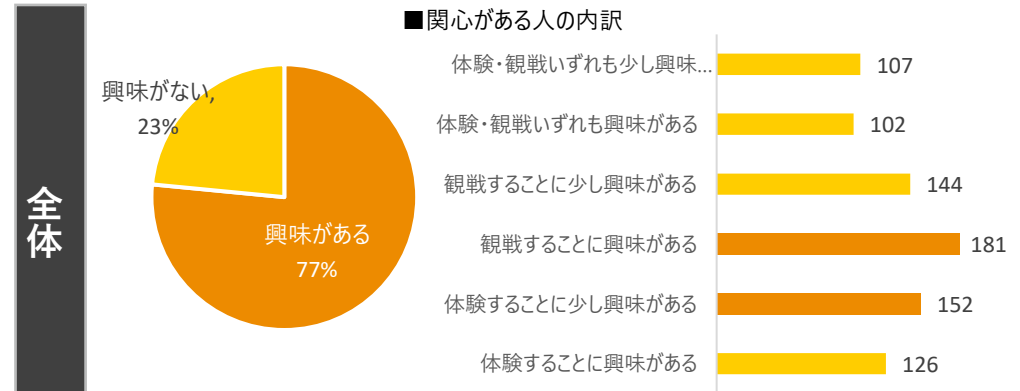
Q1.スポーツライミングを知っていますか？体験は？

スポーツライミングを「体験したことがない」を回答した人が7割以上だが、30代以下では体験したことがある割合が増加



Q2.スポーツライミングに興味・関心はありますか？

77%がスポーツライミングの体験及び観戦のどちらかに興味があり、30代以下ではより体験に興味・関心が高い

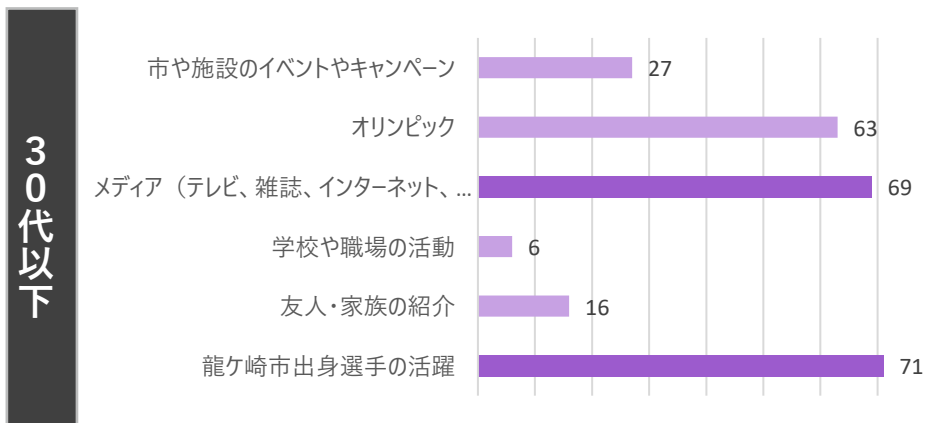
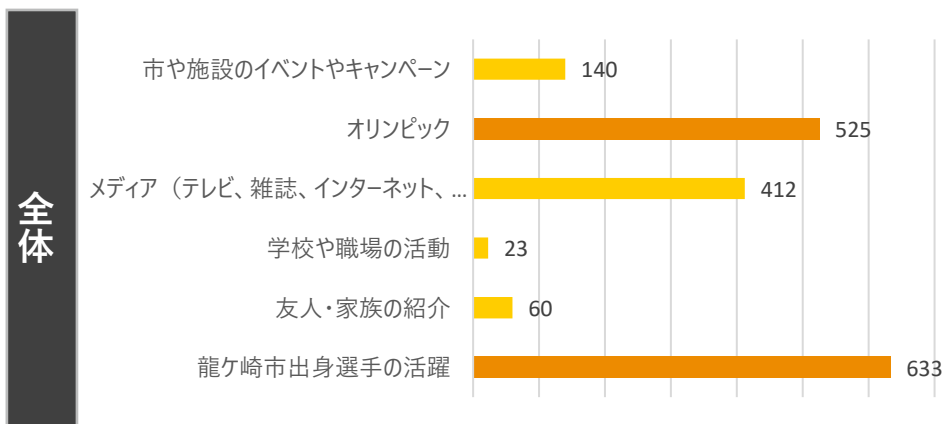


スポーツライミングを知るきっかけは、市出身選手の活躍やオリンピック開催が多数を占めました。また、印象では、楽しそうや親しみがあるが多い一方、難しそうという声もありました。

n=1105 (30代以下=156)

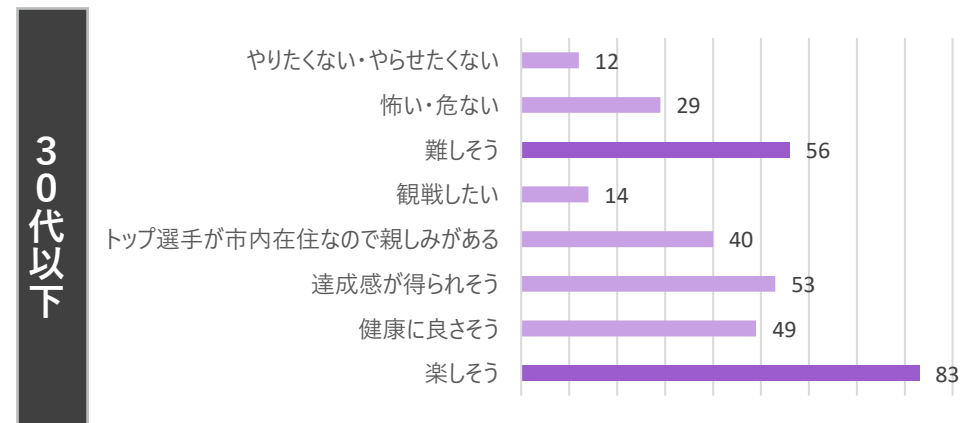
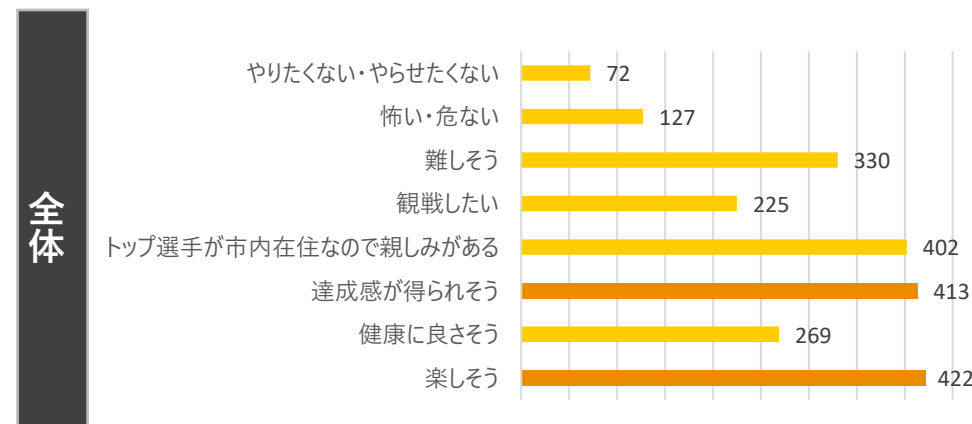
Q3.スポーツライミングを知ったきっかけは？

スポーツライミングを知ったきっかけは全世代に渡り「龍ヶ崎市出身選手の活躍」と回答している人が多い



Q4.スポーツライミングの印象は？

スポーツライミングの印象は「楽しそう」が最も高い。
全体では「トップ選手が市内在住なので親しみがある」が多く、30代以下は「難しそう」が多い

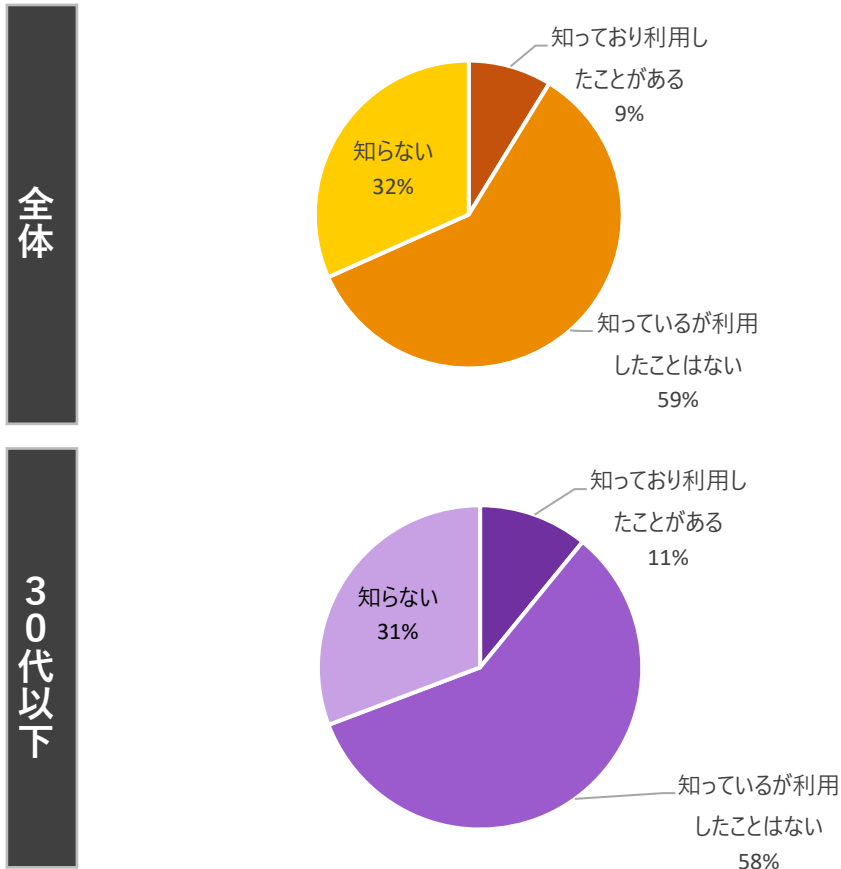


たつのこアリーナのボルダリング施設の利用者は少なく、施設があることを知らない割合も3割程度ありました。体験の頻度は約7割が継続した利用をしていない傾向にあります。

n=1105 (30代以下=156)

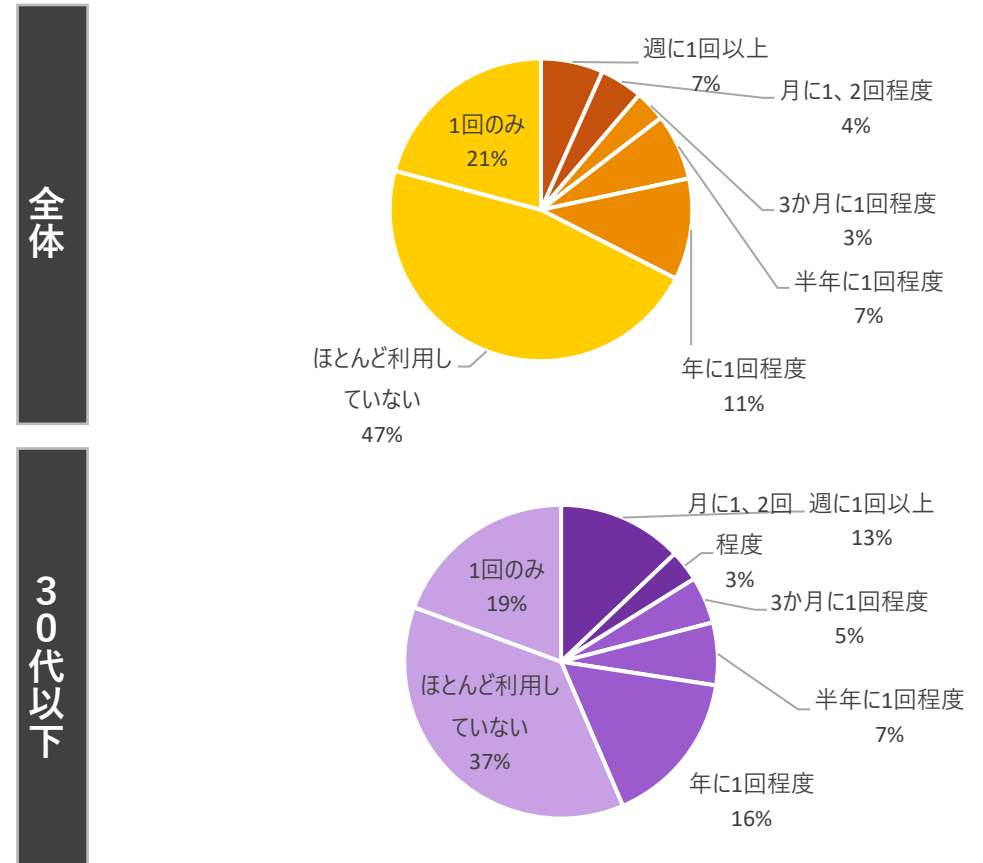
Q5. たつのこアリーナにあるボルダリング施設を知っていますか？

施設を「利用したことがある」は約1割に留まっている。
また「知らない」と回答した人も3割いる



Q6. 体験の頻度はどのくらいですか？

全体的に月に1回以上体験している人は11%と低い。が、30代以下になると体験頻度は上がり、年に1回以上体験をしている人が半数に迫る

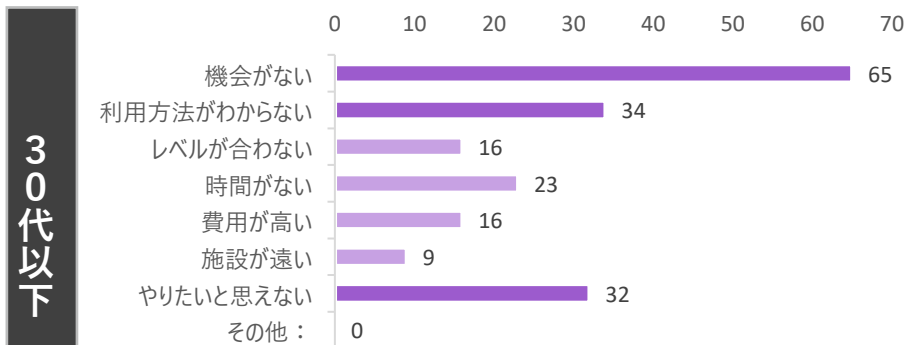
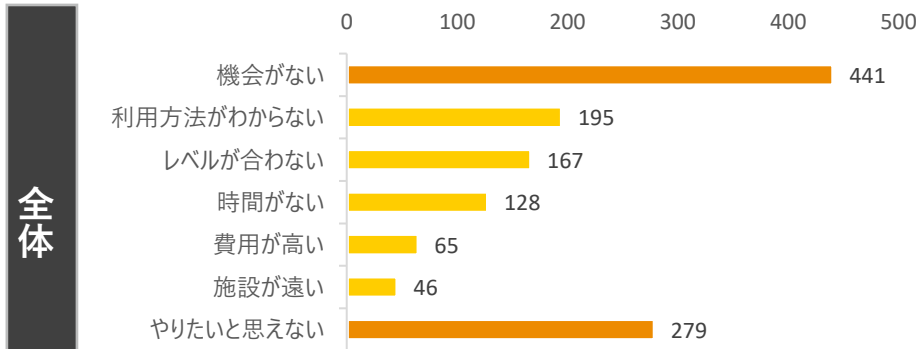


体験したことがない理由は「機会がない」と「やりたいと思えない」との回答が多い状況です。
スポーツクライミングのまちづくりに関わってみたい割合は3割をやや超える結果となりました。

n=1105 (30代以下=156)

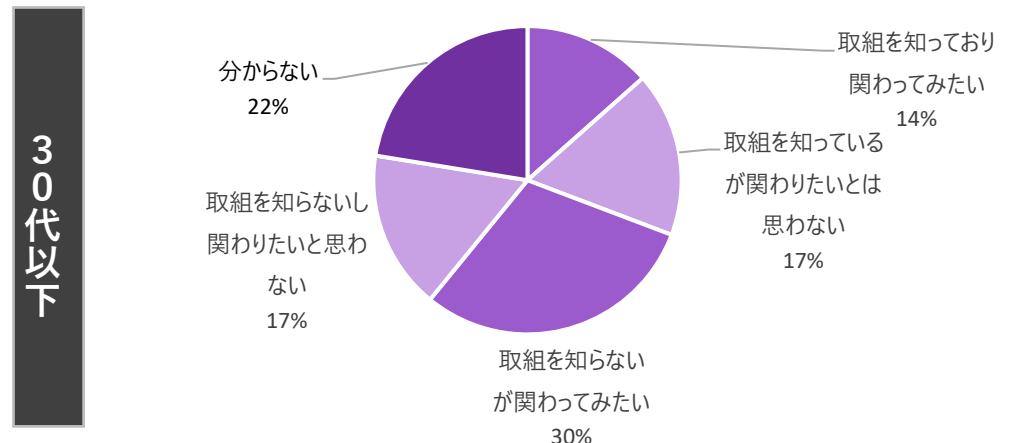
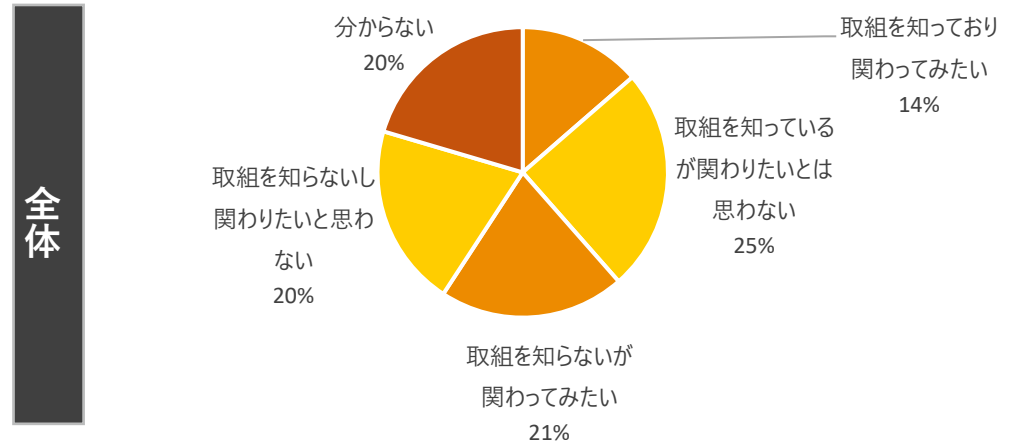
Q7. スポーツクライミングを知っているが体験したことがない方に伺います。その理由は？

全体的にスポーツクライミングをする「機会がない」「やりたいと思えない」と回答している人が多い



Q8. 「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」の取り組みを知っていますか？また、関わってみたいですか？

全体で「取り組みを知っている」と回答した人は39%。
今後「関わってみたい」と回答している人は全体で35%、30代以下で44%となっている

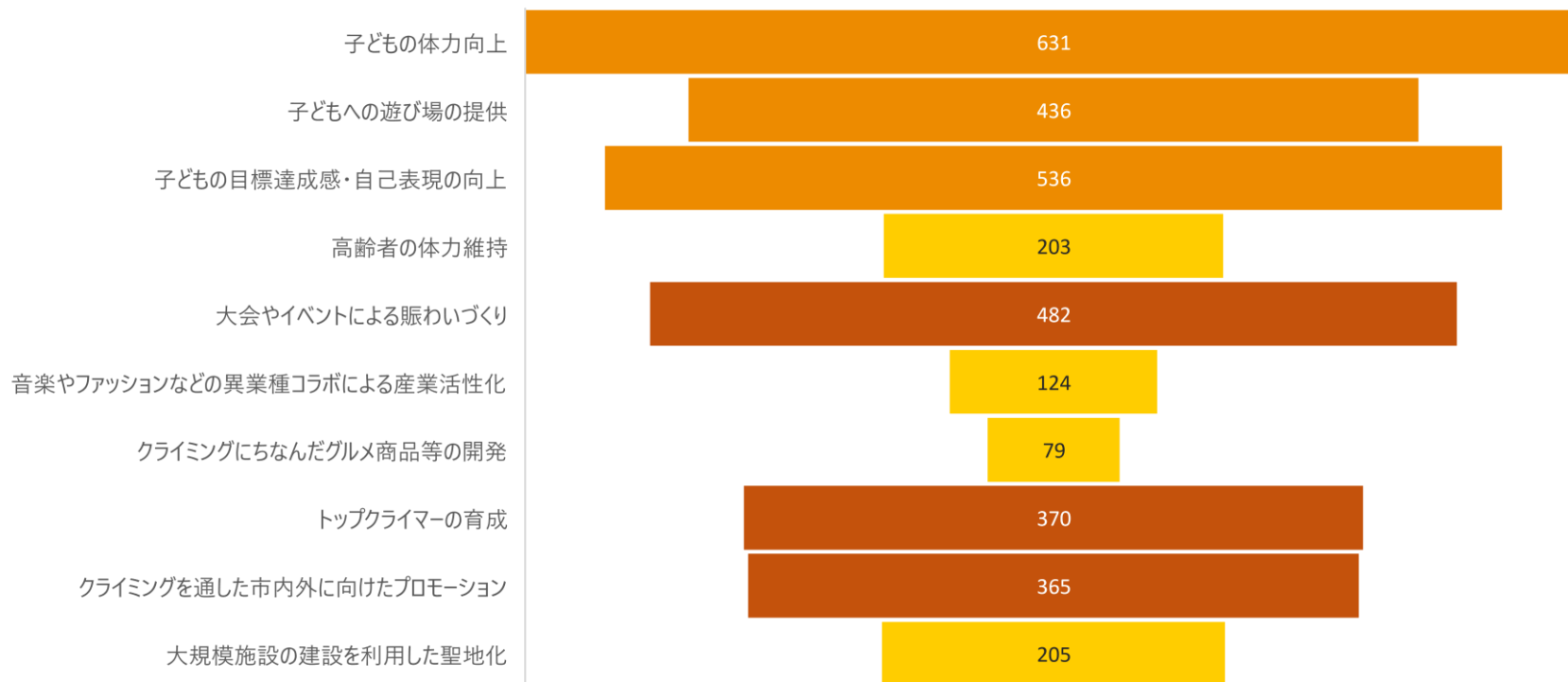


スポーツクライミングの活用方法として子どもに関する意見が多く、大会やイベントによる賑わいづくりやブランディングに対する回答も多くなっています。

n=1105

Q9.スポーツクライミングをどのような分野に活用できると思いますか？

スポーツクライミングの活用方針としては「子どもの体力向上」「目標達成・自己実現の向上」「遊び場の提供」など子どもに関するご意見が多い一方、「大会やイベントによる賑わいづくり」「トップクライマーの育成」「クライミングを通した市内外に向けたプロモーション」等、トップクライマーと連携したブランディングに対する期待も大きい



オリンピックと連携した大会やイベント開催、龍ヶ崎市の独自性をPR、子どもたちに夢や目標を与える等、継続することで将来的なまちの活性化が期待されています。

自由意見（1/3）

n=498

1. オリンピック選手と連携したまちおこし

- 地元出身のオリンピック選手や有名選手を活用してまちおこしを行うことへの意見が多く、野口啓代選手や檜崎智亜選手の存在を活かし、イベントや指導、講演会などを通じて子供たちに夢や目標を与えることへの意見がありました。

<実際のご意見例>

- 「オリンピック選手が出たのだから、聖地として、大々的に宣伝すべきだ」
 - 「せっかくオリンピックで活躍した選手がいるので交えて町おこしの一環としてスポーツクライミングをひろめてほしい」
-

2. 健康増進や教育現場への導入

- スポーツクライミングを通じて、地域住民の健康増進や子どもの育成に役立てて欲しいとの意見がありました。特に、学校の体育の授業や部活動にクライミングを導入することで、子供たちの体力向上や新たなスポーツの魅力を伝えることにつながります。

<実際のご意見例>

- 「市内に優れた指導者がいるので、子供達に挑戦してもらえると後継者も増え町の活性化に繋がると思う。」
 - 「子どもたちに体験できる機会をたくさん行う。クライミング教室を行う。」
 - 「小学校や中学校において、体育の授業に取り入れれば、ご当地スポーツとして評判になると思う。」
-

3. 独自の取り組みとして龍ヶ崎市の広報とPR

- 龍ヶ崎市の独自性のある取り組みとしてアピールして欲しいとの意見や、地域の目玉としての位置づけ、スポーツクライミングの聖地化など画期的な施策への意見もありました。一方で、交通の便やインフラ整備と合わせて進めることで、地域全体の魅力向上を図ってほしいという意見もありました。

<実際のご意見例>

- 「龍ヶ崎を世界に知らしめるきっかけにして欲しい」
- 「龍ヶ崎を聖地的に進めてみるのも良いかもしれない。ただ交通の便が車に頼るしかない地域なので渋滞が発生するのは困る。」

オリンピックと連携した大会やイベント開催、龍ヶ崎市の独自性をPR、子どもたちに夢や目標を与える等、継続することで将来的なまちの活性化が期待されています。

自由意見（2/3）

n=498

4. 大会やイベント、体験会の開催

- クライミングに関連する大会やイベント、体験会を開催してほしいとの意見がありました。特に、地域住民や観光客が気軽に参加できるイベントを通じて、クライミングの魅力を広めることや、近隣地域との連携や大会の誘致も重要な要素となります。

＜実際のご意見例＞

- ・ 「クライミングに接するイベントなどを行いクライミングについて知る機会を設ける」
- ・ 「誰でも気軽に試せるイベントを企画し、子供から大人まで無理なくクライミングに参加してもらう」

5. 施設の充実

- クライミング施設の増設や充実を求める意見がありました。初心者から上級者まで幅広く対応できる施設の整備や、大規模な練習施設の設置に加え、アクセスの向上や安全対策も重要な要素との意見もありました。

＜実際のご意見例＞

- ・ 「大規模な練習施設等の設置などによりクライミングタウンを形成し、合宿などでもできる宿泊施設も設置して行き、全国からの利用者呼び込む。」
- ・ 「様々な場所に気軽に体験できる設備を作ると需要がありそう」

6. 長期的な視点と継続的な取り組み

- スポーツクライミングのまちづくりを一時的な盛り上がりにならせず、恒久的に続けられる取り組みとして欲しいとの意見や、継続的な大会の開催、競技人口の増加を目指す取り組みを増やしてほしいとの意見がありました。

＜実際のご意見＞

- ・ 「一時的な盛り上がりでやっても意味がない。恒久的に続けられるような取り組みが必要かと。トップクライマーが参加する大会の誘致と継続的な開催のほか、市内高校に部を作るなど、競技人口を増やす取組みや競技自体に身近さがないと、子どもへの機会提供程度では将来的には消滅してしまうものと思います。全国的に人口は確実に減少しています。」

スポーツライミングは競技人口が少なく、高齢者や体力に自信のない人にはできない競技と認識されていることから、限定的な取り組みになってしまうことが懸念されています。

自由意見（3/3）

n=498

1. マイナー競技活用に対する不安

- スポーツライミングの競技人口の少なさや難易度からも一般化が難しいのではという意見があります。競技人口増加に向けて、はじめる際に敷居が高いイメージがあり、未経験者や初心者が参加しやすい体験教室が求められています。
- 上記以外にも、交通機関の利便性向上や子育て支援などにも財源活用を希望する意見があります。より多くの市民が恩恵を受けることができ、市外からの来訪や移住などを通して人口課題解決に貢献できるような取組が求められています。

< 実際のご意見例 >

- ・ 「特殊な分野であり、一般化は難しいと思う。」
- ・ 「スポーツライミングは敷居が高いイメージです。未経験の小学生でも出来そうな体験教室が増えるといいなと思います。」
- ・ 「一部の人にしかメリットがないのでは？まずは知名度や競技人口(遊びも)の増加をさせたほうが」
- ・ 「スポーツライミングをまちづくりというのは興味がある方など人数的には対象範囲が狭いと思う。そこに使う財源があるならばもっと子育て支援金として使うなど、人口維持にお金をかけるべきではないでしょうか。」

2. 高齢者や体力に自信がない人には難しい

- 高齢者や体力に自信がない方には課題の多いスポーツであるとする意見が見られます。全世代に対応するための工夫や、安全で参加しやすい環境作りが求められます。

< 実際のご意見例 >

- ・ 「まちづくりの資源として活用することについて異論はないが、高齢者にはハードルが高いスポーツだと思う。」
- ・ 「年寄りには無理です。若い人のスポーツ」